

■玉城朝薫 演劇家、琉球王国役人。歌三線・舞踊・せりふを総合した古典楽劇“組踊り”を創始大成。“琉球国劇の祖”。

たまぐすくちょうくん

堀田正俊暗殺1684＝ 首里儀保で、尚真王の第三王子詔威今帰仁朝典の10世に生まれる。

1688＝ 4歳：父が死去。

母は再婚して家を出る。

世間胸算用・1692＝ 8歳：祖父朝恩も死去したため、跡を継いで玉城間切の地頭になり、

奥の細道・・・1693＝ 9歳：

__幼少のときから芸能にしたしみ、

生類憐令頂点1695＝11歳：

重秀勘定奉行1696＝12歳：御書院小赤頭として__王府に初出仕。

・・・・・・1697＝13歳：御書院若里之子になり、文弥の名とともに、__多くの踊り衣裳を賜る。

赤徳浪士討入1702＝18歳：

赤徳浪士切腹1703＝19歳：カタカシラを結う。

団十郎刺殺・1704＝20歳：尚氏美里王子朝禎とともに、小姓として薩摩へ上国。

御蔭参流行・1705＝21歳：尚氏越來王子朝奇とともに、小姓として薩摩へ上国。

・・・・・・1706＝22歳：御書院当足役、黄冠に陞り、朝薫と名乗る、この年、*薩摩藩主島津吉貴の所望に応じて仕舞「軒端の梅(東北)」を舞うなど大和芸能にも長じ、何度も薩摩へ渡るうちに接した能楽・狂言・歌舞伎なども踏まえて、

徳川綱吉没・1709＝25歳：

・・・・・・1710＝26歳：尚氏美里王子朝禎とともに、与力として上国。6代将軍家宣の即位を慶賀するため、島津吉貴が江戸へ赴くにあたり、琉球の上司とともにお供することを申しつけられ、通訳の任を当てられ、何処でも日本語を話してよいとの許しも得る。この*初の江戸行の際、劇作を思い立ち、薩摩屋敷で「かせかけ」の前身といわれる女踊り「くりまえ踊り」を踊る。

冥途の飛脚・1711＝27歳：

乾山陶器店・1712＝28歳：尚益王の薨去を知らせる飛脚使として上国。

絵島事件・・・1714＝30歳：尚氏与那城王子朝直・尚氏金武王子朝祐とともに、__通訳として上国、座楽主取を兼ねて、芸能団を指導。

西洋紀聞・・・1715＝31歳：尚貞王の七年忌にあたり__踊奉行となる。

徳川吉宗将軍1716＝32歳：那覇港の浚渫脇奉行となる。

御蔭参流行・1718＝34歳：冊封使の来琉にあたり*踊奉行となり、琉球最初の戯曲となる5編の組踊脇を創作、組踊五番と呼ばれる。

・・・・・・1719＝35歳：*尚敬王七年の冠船に踊奉行をつとめ、重陽の宴で、このうちの「執心鐘入」と「護佐丸敵討(二童敵討)」をはじめて上演。

洋書輸入解禁1720＝36歳：御物奉行吟味役経て、那覇里主となる。

・・・・・・1722＝38歳：申口方吟味日帳主取となる。

火の見櫓制・1723＝39歳：日帳主取となる。雍正帝の即位と進貢船の覆破を伝える使者として上国。

近松没・・・1724＝40歳：再び、御物奉行吟味役となり、

・・・・・・1725＝41歳：御物奉行に昇進。

获生徂徠没・1728＝44歳：__紫冠に陞り、

梅岩心学始・1729＝45歳：*年頭慶賀使として最後の上国をして、

享保大飢饉・1732＝48歳：

・・・・・・1734＝50歳：__没した。